

2023年度開講科目（一部抜粋）

授業科目名	担当者	科目の概要
社会福祉入門	宍戸 邦章	少子高齢化、未婚化、小家族化が進む現代社会では、これまで頼りにしてきた家族や親族が脆弱になり、それに代わって公的な社会福祉制度の重要性が増しています。本講義では、現代社会の変化を把握し、社会福祉の理念、社会保障制度、社会福祉の対象とその担い手について解説します。社会福祉を自分の問題として把握していただくために、自殺や失業、児童虐待など、日常生活で身近な問題から入っていきます。社会福祉の理解を深め、皆さん自身にリスクが生じた時の対処方法を知り、「人生の防御力」を高めて欲しいと思います。
環境論Ⅰ	大西 敏夫	私たちをとりまく地球環境が直面している問題と、環境に影響を与える生活や産業活動および科学技術のあり方について実例をふまえながら学習します。授業では、最初に、地球温暖化や砂漠化・森林破壊、生物多様性の低下、海洋汚染など地球環境問題の全般について学習します。次いで、地球温暖化問題、公害問題、人口問題や食料問題など具体的なテーマをとりあげて学習します。さらに、地球温暖化対策や再生可能エネルギーへの取組について世界と日本の実情について学習するとともに、地球環境と経済発展、持続可能な社会のあり方について考察します。
環境論Ⅰ	藤井 至	人類にとって経済発展と環境・資源・エネルギー問題はきわめて重要な問題です。しかし、近年、自然生態系の破壊、地球温暖化、食料問題など、わたしたちの生存をおびやかす様々な地球環境問題が注目されるようになりました。このような時代のなかで生きるためには、環境問題についてどのように向き合っていくかが重要になってきます。この講義では、こうした地球環境問題について、その基礎を学習するとともに、受講生自身がどのように向き合っていくべきかを考えてもらいます。
環境論Ⅰ	松下 京平	私たちの身の回りから世界規模で起きている様々なレベルの環境問題、とりわけ、私たち人類が将来にわたって存続するために欠かすことのできない気候変動や自然劣化に関する問題に着目し、現在起きている環境問題が私たちにどういった影響を及ぼしているかを理解することを目的としています。その上で、気候変動や自然劣化等の環境問題が起きるメカニズムを理解することで、環境問題への様々な対処法について学びます。なお、講義は配布資料に加え、環境に関する映像資料を交えることで、多角的に環境問題を理解することに努めます。
環境論Ⅱ	大西 敏夫	人間社会と自然との健全な物質循環を基本とする持続可能な社会の形成には、人間と自然・環境とのかかわりについて正しく理解するとともに、日常生活や地域社会における足元からの取組が不可欠です。そのことを実例をふまえながら学習します。授業では、人間と自然との関係、経済社会と自然環境、里山と里山保全、土地資源の利用と計画など基礎的なテーマを設定し学習します。そのうえで、環境保全と持続可能なまちづくり、経済発展と環境保全などについて学習するとともに、持続可能な循環型社会の形成への取組・実践、さらに課題・展望について考えます。
環境論Ⅱ	藤井 至	これまで人類の活動は、気候変動や生物多様性の危機など深刻な地球環境問題を引き起こしてきました。そうした状況を受け、世界は持続可能性（サステナビリティ）を軸とした再編を模索しつつあります。この講義では、持続可能な社会形成に向かうに至った背景をとりあげ、環境・食・農をキーワードにその動向について詳しく掘り下げていきます。そして、それらを理解したうえで、持続可能な社会を築いていくために必要な取り組みなどについて考えていきます。
環境論Ⅱ	松下 京平	私たちの身の回りから世界規模で起きている様々なレベルの環境問題、とりわけ、私たち人類が将来にわたって存続するために欠かすことのできない気候変動や自然劣化に関する問題に着目し、現在起きている環境問題が私たちにどういった影響を及ぼしているかを理解することを目的としています。また、より良い自然環境をこれからも私たちが享受し続けるために、国や自治体だけではなく私たち一般市民や企業も社会の構成員として積極的に関わっていくことが求められており、その中で多様な主体がそれぞれどのような役割を果たしていくべきかについて具体的に検討します。
地域探究実践Ⅰ	明尾 圭造	地域文化やそこに関わる人間関係を学びながら、学生により多くの「気付き」を促すことが出来るように身近な事例を提示します。具体的には、東大阪市や大阪市域の多様な文化施設を実地見学します。現地では、担当者を交えた双方向のディスカッションをもとにその成り立ちや施設運営の実際を学びます。また、本学の谷岡記念館では商業史博物館を中心として展示資料の調査はもとより、それらを活用した展示企画など具体的な資料をもとに地域探究の方法を学びます。当講座は、これら地域の施設や資料をもとにしたSDGs（持続可能な開発目標）の一端を探る授業でもあります。
世界史Ⅱ	河合 竜太	現代社会のさまざまな制度は、近代のヨーロッパで始まりました。本講義ではイギリス、フランス、ドイツを中心として、近世から近代、そして現代までのヨーロッパ史を講義します。具体的には、近代の前夜である身分制度に基づく近世社会から、フランス革命以降の国民国家の時代、20世紀の二つの世界大戦、そして戦後社会までです。なお本講義では、民主主義やファシズムといった政治体制、資本主義や社会主義といった経済システムだけでなく、家族、ジェンダー秩序、余暇といった社会・文化についても説明します。近世から近代、そして現代の歴史を学びながら、現在、そして今後の世界を考えていきましょう。
日本史Ⅱ	坂口 正彦	古代から近現代にいたる日本の歴史について講義するものです。現代社会を相対的な視点から観察するために、多面的な視点を獲得するために、歴史を学ぶことは大きな意味を持つでしょう。「人びとはいかなる意識のもと、どのような生活を送っていたのか」、「政治・経済・社会の仕組みはどのようなものであり、どのような理由で、いかに変化していったのか」。こうした疑問にこたえる授業を、さまざまな史料を用いて実践していきます。

2023年度開講科目（一部抜粋）

授業科目名	担当者	科目の概要
生涯スポーツ論Ⅰ	彦次 佳	一言で「スポーツを楽しむ」と表現しますが、それはいったいどのようなことでしょうか？年齢や体力、ライフステージによってスポーツへの関わり方や楽しみ方はさまざま、それらは個人の志向、好み、ニーズによってさらに多様な彩を放つことになります。本講義では、さまざまなスポーツへの関わり方と楽しみ方を学ぶと共に、それらを効果的に啓発・推進し、個人および集団（市民）のスポーツ活動から多様な社会的便益を生み出すための推進策や方法論について学習・理解を深めていきます。
ゼミナールⅡ	伊東 眞一	近年、世界は「感染症」と「分断」の2つを軸にして、新しい時代へと突き進んでいます。「感染症」とは2020年より始まった「新型コロナウイルス感染症」によるパンデミックを指しています。これにより世界中でロックダウンが行われ、人々の生活は激変し、世界経済は停滞を余儀なくされてしまいました。またもう一つの「分断」とは「米中貿易摩擦」から始まり、2022年には「ロシアのウクライナ侵攻」により「民主主義」と「権威主義」の対立として顕在化し、政治・経済の混乱が続いています。このゼミでは、これまでの常識やルールが通用しなくなる流動化の時代へと移行している今をしっかりと見る力を育むことを第一としています。
ゼミナールⅡ	狭間 恵三子	人口減少社会、グローバル化が進展する中、多くの都市や地域では、経済、産業、環境、福祉等、様々な政策課題が存在します。持続可能な地域運営には、定住人口の維持、交流人口の拡大が欠かせず、多くの地域が、住みたいと思う町、訪れたいと思う町等、人をひきつけるまちづくりを目指して、様々な政策や活動に取り組んでいます。このゼミでは、まず「まちづくり」とは何か、その概念とフレームワークについて学びます。次にグループワークによるまちづくりの事例調査を通じて、地域についての理解を深め、都市・地域政策について学びます。
ゼミナールⅡ	藤井 至	このゼミナールⅡにおいては、都市と農村の交流による地域活性化についてテキストの輪読と事例の紹介・体験（可能ならば・必要に応じて）によって学んでいきます。農産物直売所や市民農園、体験教育旅行、農家レストラン等の都市農村交流活動は、地域活性化の一手段としてさまざまな地域で取り組まれています。その、背景や内容を知り、必要に応じて現場での活動を実際に見ることで、それらの取り組みを活用した地域活性化について考えてもらいます。
フィールドワークゼミナールⅡ	大島 安奈	日本は人口減少・少子高齢化に直面しており、消費の減退による経済への影響が懸念されている。そうした中、観光による交流人口の拡大が期待され、2003年のビジットジャパンキャンペーン開始以来、訪日外国人旅行者の誘致政策が積極的に推進されてきた。コロナ禍においては移動が主となる観光産業は大きな打撃をうけたが、Afterコロナを見据え、地域の観光資源の新たな発掘や情報発信により、観光需要の喚起につなげる必要がある。また、SDGsの理念でもある誰1人として取り残さない社会の実現には、観光領域においても誰もが観光を楽しめる環境を整備する必要がある。そこで、大島ゼミでは多様性社会の観光まちづくりを考える。
フィールドワークゼミナールⅡ	近藤 祐二	地域社会には地場産業の衰退、過疎化等解決すべき課題が数多く存在しています。これらの課題を「観光」を通じて解消していく方法を探っていきます。特産品を使っての新商品開発、地域の魅力を再発見できる観光商品開発や、既存レジャー施設の再活性化策の提案等、企業・団体や地域社会と共に課題解決をおこないます。"本ゼミでは、顧客の「経験価値」「体験価値」に注目し、顧客が商品やサービスに能動的に参加し、その体験の一部となることにより顧客の経験価値が高まり、それが付加価値を高め、商品差別化がより強いものになることがFWを通じて実証することを目的に活動をおこなっていきます。
フィールドワークゼミナールⅡ	宍戸 邦章	日本是世界で一番少子高齢化が進んでいる国です。未婚率や離婚率も増加し、家族がもっていたサポート力は弱くなりました。行政が担っているサービスも今後は多くを期待できなくなるでしょう。生活の場である身近なコミュニティの中で多様な主体が連携して問題を解決していくことが求められています。本ゼミナールを通じて、子どもから高齢者まで学外の様々な人々と出会い、コミュニケーションの力と問題を解決する力を高めましょう。
フィールドワークゼミナールⅡ	原田 禎夫	世界的な問題となっている海ごみ問題や水産資源の枯渇といった海洋の環境問題も、私たちにとって身近な川の環境と大きな関係があります。このゼミでは、実践活動や理論的研究を通して日本の川が抱える問題を行政や企業、NPOのみならず一緒に考え、社会的な問題解決の仕組みを体験を通じて学びます。なお本年度は、フィールドワークの実施にあたっては新型コロナウイルス感染症対策を考慮して、オンラインでの学習も積極的に活用した取り組みを進めます。
ゼミナールⅢ	閻 和平	超高齢少子社会に入った日本は住宅政策が新たな展開を求められている。例を挙げれば、高齢者がどこに住み、どうすれば適切な介護を受けられるか、ほかに、住宅が世代間で循環されるシステムの構築、差し迫る大地震への住宅耐震補強、住宅金融の構造転換、住宅弱者への支援、等などの課題が山積している。これらの問題は私たち一人ひとりの人生に深く関わり、社会の在り方そのものである。社会が変われば住まいが変わる。社会を変えるには住まいを変えなければならない。本ゼミは日本の住宅事情、住宅政策を点検し、国民が安定した住生活を送り、楽しく仕事ができる社会の実現方策について考え、明らかにする。
ゼミナールⅢ	大島 安奈	最近「SDGs」という言葉をよく耳にするのではないのでしょうか。SDGsとは持続可能な社会の実現に向けて、世界が一丸となって取り組むべき普遍的な目標です。たとえば、環境問題、貧困問題、ジェンダー平等、エシカル消費等の目標が掲げられており、行政のみならず、企業や市民一人ひとりの目標達成に向けた取り組みが求められています。こうした背景には、有限な地球資源の限界、このままでは地球に住めなくなる未来がやってくるという強い危機感があります。本ゼミナールでは、社会課題の解決をビジネスで目指す社会起業家に着目し、ソーシャルビジネスの実践課題に取り組みます。チームメンバーと協働しながら、課題の解決を目指します。

2023年度開講科目（一部抜粋）

授業科目名	担当者	科目の概要
ゼミナールⅢ	狭間 惠三子	近年の日本では、人口の東京一極集中が進展し、地方との間の格差が拡大しています。地方の人口減少は一層深刻化し、地方創生は現代日本におけるきわめて重要な課題です。一方で、若い世代が地方都市や農山漁村に対する関心を高めており、総務省の施策である「地域おこし協力隊」に手をあげる若者たちは年々増加しています。過疎化や高齢化を乗り越え、いかにして地域を再生するか。地域にある資源を掘り起こし、それをどのように活かし、持続可能な地域づくりにつなげていくか。地域資源を活かしたまちづくりについて、先進事例を参考にしながら考え、学びあいましょう。
フィールドワークゼミナールⅢ	宍戸 邦章	日本は世界で一番少子高齢化が進んでいる国です。未婚率や離婚率も増加し、家族がもっていたサポート力は弱くなりました。行政が担っているサービスも今後は多くを期待できなくなるでしょう。生活の場である身近なコミュニティの中で多様な主体が連携して問題を解決していくことが求められています。本ゼミナールを通じて、子どもから高齢者まで学外の様々な人々と出会い、コミュニケーションの力と問題を解決する力を高めましょう。
フィールドワークゼミナールⅢ	原田 禎夫	世界的な問題となっている海ごみ問題や水産資源の枯渇といった海洋の環境問題も、私たちにとって身近な川の環境と大きな関係があります。このゼミナールでは、ごみ調査や国の天然記念物「イタセンバラ」や天然鮎の復活に向けた取り組みなどの実践活動や、理論的な研究を通して、「日本の川が抱える問題」を行政や企業、NPOの人たちと一緒に考え、社会的な問題解決の仕組みを体験を通じて学びます。なお本年度は、フィールドワークの実施にあたっては新型コロナウイルス感染症対策を考慮して、オンラインでの学習も積極的に活用した取り組みを進めます。
フィールドワークゼミナールⅣ	宍戸 邦章	現代社会には、少子高齢化にともなう様々な社会的問題が存在しています。問題の背景をデータに基づいて把握し、先行事例から問題を解決する有効な方策を検討して、研究レポートのかたちにまとめましょう。研究レポートへの取り組みは、難しいイメージをもつかもしれませんが、「自分で立てた問いに説得力をもって答える」営みだといえます。学生時代の最後の取り組みとして、研究レポートを執筆してみましょう。社会科学系の研究テーマなら、どのようなものでも受け付けます。
フィールドワークゼミナールⅣ	原田 禎夫	世界的な問題となっている海ごみ問題や水産資源の枯渇といった海洋の環境問題も、私たちにとって身近な川の環境と大きな関係があります。このゼミでは、実践活動や理論的研究を通して日本の川が抱える問題を行政や企業、NPOの人たちと一緒に考え、社会的な問題解決の仕組みを体験を通じて学びます。なお本年度は、フィールドワークの実施にあたっては新型コロナウイルス感染症対策を考慮して、オンラインでの学習も積極的に活用した取り組みを進めます。
開発経済学	柴田 孝	途上国の生活には、日本に生まれ育つ私たちが想像したこともないような困難があります。そうした現実を私たちが思い描く普通の生活と比較することで、私たち一人一人が、いかに社会と結び付いていることで恩恵を受けているか、そしてどれだけ助けられているかを学びます。たとえば家族の生活のために働く15歳未満の子どもは全世界で1億人以上います。しかし日本では15歳未満の子どもは義務教育（小中学校）を受けるために学校に通っています。どうして子どもが働かなければならない状態が続いているのでしょうか。開発経済学ではこうした問題を知り、経済学を使って考えていきます。
経済学史	北田 了介	歴史的背景を踏まえながら、17世紀以降のさまざまな経済諸学説、「重商主義」、「フィジオクラシー（重農主義）」、「古典派経済学」、「マルクスの経済学」、「新古典派経済学」、「ケインズによるマクロ経済学」、「ケインズ以降の展開」について概説するとともに、それぞれの思想が現代の経済理論においてどのような影響をもたらしているか、さらには今日わたしたちが抱える諸問題（経済的格差の問題、気候変動問題等）に対してどのような提言を与えてくれるかについて考察する。
経済学特殊講義Ⅱ	下山 晃	経済活動や商業は、単に金銭的な富を増やすだけのものなのでしょうか？この授業では、モノは単なる商品ではなく、命を素材としたもの、多様な歴史と豊かな文化を築きあげたもの、ヒトの心と社会をつなげ支えるものとして考え、経済活動や商業の歴史的な意義を根本から考え直していきます。市や交易の起源は虹と関わり、商品の生産や消費は身分や差別と深く関わっています。誰もが知っている砂糖やコーヒーは、タバコや綿花と同様に奴隷制が世界に広めたものです。そうした意外な事実を伴うのが、実は商業世界の展開です。「モノの歴史と心の歴史」をたどるこの授業で、経済の歴史と文化との関わりが鮮明に見えてくることになります。
経済学特殊講義Ⅲ	下山 晃	近代以後にはあらゆるモノ（農産物や地下資源、工業製品、ヒトを含めた生き物など）が商品化され営利の対象となりました。それは実は、グローバルに拡大する大規模奴隷制プランテーションや植民地帝国の「発展」を主軸としていたのですが、その歴史的な特徴は世界を有機的につながった一つの経済・貿易システムとしてとらえることで理解がしやすくなります。この授業では世界経済史の概要を展望し、その上で現在のグローバルな経済システムの展開を基礎づけている歴史的な社会構造がどのようなものであるのかを考察していきます。そうした展望と絡めて、日本の商業社会の歴史的・文化的な特質に強い関心を寄せてみるのも、この授業の特徴です。
経済システム論Ⅱ	森田 学	少子高齢化、人口減少の進展によって、地方において「自治体の消滅」が発生するおそれがあることが指摘されており、地域の持続可能性が脅かされている。本講義では、農商工連携、循環型林業、地域通貨、地域商社、再生可能エネルギー等を題材に、地域の稼ぐ力や地域の域内経済循環を高めるための方策について学ぶとともに、都市のスポンジ化、コンパクトシティ、自治体間連携、移住等を題材に、人口減少時代におけるまちづくりや自治体政策のあり方についても学び、地域の持続可能性について議論できる力を養う。

2023年度開講科目（一部抜粋）

授業科目名	担当者	科目の概要
経済政策（半期）	檜 康子	景気後退、失業、貧困、環境汚染といった社会問題を解決するために、さまざまな経済政策が行われています。これらの政策が行われている背景や効果を理解することは、現実の経済の動きや社会への理解を深める上で非常に重要です。この科目では、経済学の視点から社会問題の発生メカニズムやその解決方法についての講義をします。まずは、様々な経済政策の背後にある基礎的な考え方を説明します。これを踏まえていくつかの分野における経済政策について解説していきます。
公共経営学特殊講義Ⅱ	狭間 恵三子	2015年の国連サミットで、持続可能な開発目標（SDGs）が採択されました。SDGsが掲げる17のゴールは、環境、社会、人権、教育など、世界が抱える様々な問題の解決を目指しています。本授業では、まずSDGsとは何か、その理念や行動計画について学びます。そして環境問題に焦点をあてながら、SDGsのゴールに向け国や自治体、企業や市民など、各セクターがどのように力を合わせて持続可能な社会を構築していくかを考えます。
公共政策	藤井 至	現代社会においては、経済、環境、社会、食料、農業などさまざまな分野で問題・課題が生じています。それら「公共的問題を解決するための、解決の方向性と具体的手段」こそが「公共政策」とされるものです。この講義では、公共政策の基礎を学ぶとともに、どのように公共政策はデザインされ決定されるのか、実施され評価されるのかについて理解してもらうことを目的としています。それらを通じて、公共政策についての関心を高めてもらいたいと思います。
社会貢献論	長妻 三佐雄	「世のため、人のため」を志す、さまざまな社会貢献活動の流れを歴史的にたどり、企業や市民など民間の公益活動の社会的意義を明らかにする。また自然環境保護、福祉、学術・教育支援、芸術・文化の振興、国際交流など今日の民間公益活動の具体的な事例に学びながら、その役割を考察する。歴史的に、商人や企業家が果たした先駆的な役割や活動の特色を紹介し、これからの社会における企業の文化・社会活動を通じた社会貢献、さらに地域社会への貢献活動などについて説明する。
社会政策Ⅱ	豊山 宗洋	・社会政策の中心テーマは労働政策と社会保障制度である。・社会政策Ⅱでは社会保障制度のなかの介護や福祉を考察するとともに、労働に関しては日本型雇用システム、雇用保険等を考察する。・少子高齢化の進行、雇用形態の変容等により、介護や福祉ならびに労働に関連する問題が発生し、そのための財源をどのように確保するのが大きな課題となっている。・本講義では、介護・貧困・福祉ならびに労働に関する現状と政策を、経済学の理論と関連づけながら解説する。・そして、受講生自らが、講義で学んだことにもとづいて、現実の社会保障制度、労働政策をめぐる諸問題に関心を持ち、考える姿勢を身につけることを目標にする。
社会福祉論	豊山 宗洋	・私たちは生活をするなかで貧困、病気、障害などいろんな困難に遭遇する可能性がある。そうした生活困難に陥ることをどう予防するか、陥った場合にどう対応するのかを考えるのが社会福祉の課題である。・このときすべての生活困難が社会福祉の対象ではなく、社会保障が対象とする生活困難は、行政等が関わることで「社会的に」対応すべき問題と認められる必要がある。・しかしDV（親しい人のあいだでの暴力）がそうであったように、一部の人の生活困難はひとりで「社会」問題になるのではない。社会問題化のためには相応の努力が必要になるのであり、それゆえ考察にあたって歴史的な視点は不可欠なものとなる。
社会的企業論	池田 潔	近年、地域や社会では子育て問題、教育問題、環境問題などさまざまな課題が山積している。これまで、こうした問題は行政が解決するものと考えられてきた。しかし、行政の財源が不足しているほか、問題が複雑多岐にわたり、行政だけでは解決が困難となっている。そこで、ビジネスの手法で解決するのがコミュニティ・ビジネスやソーシャル・ビジネスであり、また、企業のCSR(企業の社会的責任)やCSV(共通価値の創造)活動と呼ばれているものである。本講義では身近な中小企業を中心に、企業の活動を紹介しながら、地域や社会的課題の解決について考える。
商学特殊講義Ⅱ	下山 晃	鼻に骨を刺したり奇妙な仮面を被ったり火祭をしたり、世界の歴史の中には妙なモノが多い。奴隷制や差別や戦争なんて実に変なモノも、いつの時代にも当たり前のようになっている。ちょんまげをしないと笑われる時代もあった。いま現在も、少年兵や子供の奴隷まで居るし、戦争はわざわざ作り出されたりもしている。なぜそんなに変なモノを積み上げて世界の歴史が展開したのか、その背景にある時代ごとの＜当たり前な感覚＞を読み解き、歴史の意味を深く考えて、自分の常識を見直してみませんか。
商学特殊講義Ⅲ	下山 晃	近代世界は自由と民主主義発展の歴史として語られることが多いですが、実は欧米を中核とした植民地主義が世界を取り込んでしまう歴史の展開でもありました。この授業ではその展開の具体的なあり方を、砂糖やコーヒー、綿花、地下資源などの世界商品普及の具体的な事例と照らし合わせて展望し、グローバル世界「発展」の問題点や現代世界との関連を学びます。今の日本も、その歴史展開から生まれた環境問題や児童労働の問題と決して無縁ではないことがこの授業から見通せることになります。どの本やどのネットサイトにも書かれていない独自の視点から見てゆく授業で、誰もが知っていそうなことを誰も知らなかった史実から展望していきます。
地域経済学Ⅰ	森田 学	景気の低迷、少子高齢化、財政危機など重要な課題が山積する日本で地域の持続可能性を高めていくためには、地域の現状や課題を正しく認識し、地域の実情に応じた対策を講じる必要がある。授業では、地域をひとつの経済単位として見なし、どの地域でも適用可能な理論や概念について学ぶことで、地域経済のメカニズムについての理解を深める。また、地域経済変容の背景や要因について分析・評価する力を鍛え、地域経済政策が地域にどのような影響を与えるのか、また地域課題に対してどのような政策が有効であるのか考察できる力を養う。

2023年度開講科目（一部抜粋）

授業科目名	担当者	科目の概要
地域経済学Ⅱ	森田 学	景気の低迷、少子高齢化、財政危機など重要な課題が山積する日本で、地域経済が持続可能であるためには、地域の現状や課題を正しく認識し、地域の実情に応じた対策を講じる必要がある。授業では、企業や家計等、経済主体が集積する「都市」をキーワードに、地域経済学の理論や概念について学ぶことで、地域経済についての理解を深める。また、都市の盛衰の背景や要因について分析・評価する力を鍛え、経済政策が地域経済にどのような影響を与えるのか考察できる力を養う。
地域コミュニティ論	的場 啓一	「公共」を考える最も身近な存在として「地域社会」があり、「地域社会」には「地域コミュニティ」が存在する。「地域コミュニティ」では、構成員が知らず知らずのうちに「公共」を意識して生活している。地域社会において役立つ人材となって活躍できるように「個人」と「地域コミュニティ」のつながりや関わりについて理解を深める。我々が生活する地域社会や地域社会におけるコミュニティの役割など、地域コミュニティに関する諸相を学び、地域コミュニティを実感しながら、地域コミュニティが受講生自らに深く係わるものであることを自覚して、各自が主体性を持って地域コミュニティについて考えるきっかけを提供する。
地域福祉政策論	豊山 宗洋	・地域福祉は、住民が、経済的に困っていたり、高齢や障害などさまざまな問題を抱えている人であっても、「普通に地域で暮らす」ことを目標とする。本講義は、この目標を実現するための施策について考察する。・近年、地域社会で生じる問題は8050問題（80代の老親と50代の引きこもりの子が孤立している問題）のように複合化しており、その問題に対しては住民を巻き込んだかたちでの連携で対応する必要がある。・それゆえ高齢者、障害者等の個別領域ではなく、領域横断的に考え、対応する必要がある。国も生活困窮者自立支援制度、地域共生社会政策などの政策で、そうした動きを促進していこうとしている。
都市開発論	西嶋 淳	この科目は、常に変化する環境の中で、都市を動かしているのはその都市にかかわるごく一般的な人々であるという認識を基盤としています。都市を持続的に発展させていくための方策を探ることはそこに住まい、暮らす自分自身の課題だと捉える人のために、参考とすべき考え方とともに、ものごとを多面的に捉える思考方法と他者と論議するための素養を身につけてもらうことを目的としています。授業では、主要な都市論の概観を通じて都市の本質と開発の意義を解説するとともに、事例の検討を通じて着眼点や課題を多面的に捉えながら考慮すべき効率性と公平性を踏まえて今後の都市開発のあり方などについて講義します。